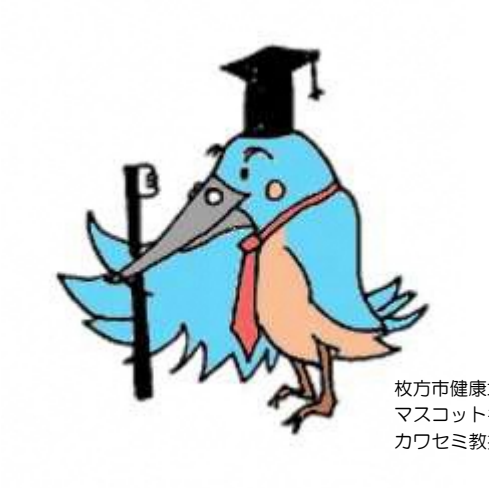
資料３―３

枚方市歯科口腔保健計画

最終評価報告書（素案）



枚方市健康増進計画
マスコットキャラクター
カワセミ教授

令和５年〇月

枚方市

目　次

第１章　枚方市歯科口腔保健計画の概要

１．　基本目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
２．　基本目標実現のための取組の方向性・重点的対策・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
３．　計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
４．　中間評価の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
５．　計画期間内に再設定した目標項目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６

第２章　最終評価について

１．　最終評価の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
２．　最終評価の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
　（１）最終評価の流れ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・７
　（２）最終評価の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
３．　最終評価のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
　（１）目標達成状況別まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
　（２）ライフステージ別に見た達成状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
４．　目標達成状況の詳細・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

第３章　最終評価からみえてきた課題と今後の取組

【資料編】

- 令和４年度 枚方市民の生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート結果報告書
- 令和４年度 小学生・中学生・高校生の生活習慣や歯と口の健康に関する調査・結果報告書
- 学校歯科保健アンケート結果報告書
- 令和４年度枚方市内の障害者（児）施設における歯と口腔に関するアンケート結果報告書
- 令和４年度枚方市内の介護老人福祉施設及び介護老人保健施設における歯と口腔に関するアンケート結果報告書

【凡例】

- 市民アンケート：生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート調査
- 小学生アンケート：小学生の生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート
- 中学生アンケート：中学生の生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート
- 高校生アンケート：高校生の「歯と口の健康」・「食」に関するアンケート
- 学校歯科保健アンケート：学校歯科保健アンケート
- 障害者（児）施設アンケート：障害者（児）施設における歯と口腔の健康に関するアンケート
- 介護施設アンケート：介護老人福祉施設及び介護老人保健施設における歯と口腔の健康に関するアンケート

第１章　枚方市歯科口腔保健計画の概要

本市では、すべての市民が健康で安心していきいきと暮らすことができるまちの実現を目指し、平成26 年３月に第２次枚方市健康増進計画を策定しました。さらに、歯と口腔の健康づくりを通じて生涯自分の歯で食べて味わい、元気でいきいきとした人生を送ることができるよう、平成 28 年３月に「枚方市歯科口腔保健計画」を策定しました。平成 28 年４月には、歯科口腔保健に関する知識の普及等の施策を実施するための行政機能組織として、「口腔保健支援センター」を設置し、市民の歯と口腔の健康づくりの推進に取り組んでいます。

１．基本目標

「食べる」「味わう」「話す」等の口腔機能は、生活の質に大きく影響し、特に、高齢者における口腔機能の低下は、健康寿命の短縮や生命予後の悪化につながる要因のひとつとなります。

乳幼児期（胎児期を含む）から高齢期まで継続して、口腔機能の育成・維持向上に向けて取り組むことにより健康寿命の延伸が期待されることから、**「市民の生涯にわたる健康寿命の延伸」**を基本目標としています。

２．基本目標実現のための取組の方向性・重点的対策

枚方市の現状と課題から取組の方向性を設定し、生涯にわたる対策や状況に応じた対策について重点的に取り組みを定めて推進します。そして、基本目標を実現するための取り組みの方向性・重点的対策を包含した理念である 8020（ハチマルニイマル）運動を推進し、健康寿命の延伸を目指します。

３．計画期間

計画期間は、平成 28 年度を始期とし、終期を「第２次枚方市健康増進計画」と合わせて令和５年度までの８年間としています。

計画の評価は、平成 30 年度に中間評価を行うとともに、計画の最終年度に最終評価を行うこととしました。

＜枚方市歯科口腔保健計画の概念図＞

枚方市健康増進計画
マスコットキャラクター
カワセミ教授

＜基本目標＞

市民の生涯にわたる健康寿命の延伸

8020 運動の推進

（一生、自分の歯で食べて味わうために！）

歯科口腔保健推進の方向性

- 歯科口腔保健に関する知識や予防の普及啓発
- 定期的に歯科健康診査を受けること等の勧奨
- 配慮を要する者が定期的に歯科健康診査を受けること等のための施策の実施
- 歯科口腔保健を推進するために必要な社会環境の整備

重点的歯科口腔保健対策

生涯にわたる歯科口腔保健

- う蝕予防・歯周病予防
  口腔機能の維持向上
- ライフステージ別の課題と取組
- 配慮を要する者の課題と取組

状況に応じた歯科口腔保健医療

- 休日急病歯科医療
- 災害時の歯科口腔保健医療

４．中間評価の概要

枚方市歯科口腔保健計画は平成 28 年度から令和５年度までの８年間の計画で、平成 30 年度に中間評価を行いました。

本計画では、計 31 項目の目標項目を設定しており、中間評価についてはそれら目標項目の達成状況を中心に評価を行いました。

目標項数 31 項目のうち、A（達成・概ね達成）または B+（改善）、B-（やや改善）が合わせて 18 項目で、全体の約 58%を示す結果となりました。一方、C（変化なし）は６項目で 19.4%、D（悪化）は７項目で 22.6%でした。

中間評価の結果からは、定期的に歯科健康診査を受診している者や、かかりつけ歯科医を有する者、喫煙と歯周病の関係について知っている者の割合が増加している等、本市における歯と口の健康づくりに対する意識は向上していると考えられる一方、「8020 運動」や「噛ミング 30」といった言葉の認知度は依然として低く、歯磨き剤がフッ素入りかどうかを知らない者も多いことが明らかとなりました。

中間評価の結果を受けて、歯と口の健康づくりに関する正しい知識の啓発活動を中心に、枚方市歯科口腔保健計画の最終年度に向けて、優先的に取り組む事項を「最終年度に向けて優先的に取り組むべきこと」のとおり、取りまとめました。

図表 1　中間評価における目標達成度の概要

目標達成度			項目数
A	達成・概ね達成	達成率 90%以上	４（１２.９％）
B+	改善	達成率 50%以上 90%未満	５（１６.１％）
B-	やや改善	達成率 10%以上 50%未満	９（２９.０％）
C	変化なし	達成率－10%以上 10%未満	６（１９.４％）
D	悪化	達成率－10%未満	７（２２.６％）
合計			３１（１００％）

最終年度に向けて優先的に取り組むべきこと

- 「8020 運動」「噛ミング 30」という言葉が市民の目に触れる機会を増やす
- う蝕や歯周病を予防するため、小学校に入学後も保護者等による磨き残しのチェックを継続する必要性を啓発する
- 学生や子育て世代・働く世代が歯と口の健康に関心を持てるよう啓発を行う
- かかりつけ歯科医を持ち、専門職による定期的な介入(プロフェッショナルケア)を受けることの必要性について啓発する
- 乳幼児、小中学生、高齢者、妊産婦、障害者(児)、要介護者、有病者に関わる職種へ、歯と口の健康づくりに関する情報提供を実施する

図表 2　中間評価における評価区分別の目標達成状況結果

■ 達成状況の分類あり

達成状況		項目番号	目標項目
A	達成・概ね達成	10	中学生・高校生における歯肉に所見を有する者の減少
		18	50 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の増加（45～54 歳）
		26	障害者（児）入所施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加
		28	糖尿病と歯周病の関係について知っている者の割合の増加
B+	改善	5-2	過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の増加（一般）
		7	3 歳児でのう蝕のない者の増加
		16	40 歳で喪失歯のない者の増加（35～44 歳）
		17	喫煙と歯周病の関係について知っている者の増加
		19	60 歳で未処置歯を有する者の減少
B-	やや改善	1-1	【小中高】「8020 運動」という言葉を知っている者の増加
		4-1	【小中高】過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者の増加
		4-2	【一般】過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者の増加
		5-1	【小中高】過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の増加
		6-2	【一般】かかりつけ歯科医を有する者の増加
		20	60 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少
		22	80 歳で 20 歯以上の自分の歯を有する者の増加（75～84 歳）
		25	妊産婦歯科健康診査受診率の増加
		27	介護老人福祉施設・介護老人保健施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加
C	変化なし	1-2	【一般】「8020 運動」という言葉を知っている者の増加
		2-1	【小中高】「噛ミング 30」という言葉を知っている者の増加
		2-2	【一般】「噛ミング 30」という言葉を知っている者の増加
		3-1	【小中高】フッ素入りの歯磨き剤を使用している者の増加
		3-2	【一般】フッ素入りの歯磨き剤を使用している者の増加
		15	40 歳の未処置歯を有する者の減少
D	悪化	6-1	【高校生】かかりつけ歯科医を有する者の増加
		8	3 歳児での不正咬合等が認められる者の減少
		9	12 歳児でう蝕のない者の増加
		12	学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少
		13	20 歳代における歯肉に炎症所見を有する者の減少
		14	40 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少
		24	60 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の割合の増加（55～64 歳）

■ 達成状況の分類なし（目標値が数値ではなく、達成状況を達成率で分類できないもの）

項目番号	目標項目	策定時からの変化
11	CO・GO と診断された者に対して個別指導を実施している小学校・中学校・高等学校の増加	小：減少 中・高：増加
21	60 歳で 24 歯以上の自分の歯を有する者の増加（55～64 歳）	減少
23	60 歳代における咀嚼良好者の増加	減少

図表 3　中間評価におけるライフステージ別の目標達成状況結果

ライフステージ	達成状況	項目番号	目標項目
全ライフステージ	B-	1-1	【小中高】「8020 運動」という言葉を知っている者の増加
	C	1-2	【一般】「8020 運動」という言葉を知っている者の増加
	C	2-1	【小中高】「噛ミング 30」という言葉を知っている者の増加
	C	2-2	【一般】「噛ミング 30」という言葉を知っている者の増加
	C	3-1	【小中高】フッ素入りの歯磨き剤を使用している者の増加
	C	3-2	【一般】フッ素入りの歯磨き剤を使用している者の増加
	B-	4-1	【小中高】過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者の増加
	B-	4-2	【一般】過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者の増加
	B-	5-1	【小中高】過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の増加
	B+	5-2	【一般】過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の増加
	D	6-1	【高校生】かかりつけ歯科医を有する者の増加
	B-	6-2	【一般】かかりつけ歯科医を有する者の増加
乳幼児期	B+	7	3 歳児でのう蝕のない者の増加
	D	8	3 歳児での不正咬合等が認められる者の減少
学齢期	D	9	12 歳児でう蝕のない者の増加
	A	10	中学生・高校生における歯肉に所見を有する者の減少
	分類なし	11	CO・GO と診断された者に対して個別指導を実施している小学校・中学校・高等学校の増加
	D	12	学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少
成人期	D	13	20 歳代における歯肉に炎症所見を有する者の減少
	D	14	40 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少
	C	15	40 歳の未処置歯を有する者の減少
	B+	16	40 歳で喪失歯のない者の増加（35～44 歳）
	B+	17	喫煙と歯周病の関係について知っている者の増加
	A	18	50 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の増加（45～54 歳）
高齢期（65 歳～）	B+	19	60 歳で未処置歯を有する者の減少
	B-	20	60 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少
	分類なし	21	60 歳で 24 歯以上の自分の歯を有する者の増加（55～64 歳）

ライフステージ	達成状況	項目番号	目標項目
	B-	22	80 歳で 20 歯以上の自分の歯を有する者の増加（75～84 歳）
	分類なし	23	60 歳代における咀嚼良好者の増加
	D	24	60 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の割合の増加（55～64 歳）
妊産婦	B-	25	妊産婦歯科健康診査受診率の増加
障害児者	A	26	障害者（児）入所施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加
要介護者	B-	27	介護老人福祉施設・介護老人保健施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加
有病者	A	28	糖尿病と歯周病の関係について知っている者の割合の増加

5．計画期間内に再設定した目標項目

計画内 31 項目の目標の内、1 項目について、中間評価時点で策定時目標値を達成したことから、中間評価時に目標値の再設定を行いました。計画策定時から変更のあった目標項目を以下に整理しています。

項目番号	目標項目	策定時目標値	変更後目標値	備考
28	糖尿病と歯周病の関係について知っている者の割合の増加	40%	50%	中間評価時点で策定時目標値に達成したため、目標値を変更

第２章　最終評価について

１．最終評価の趣旨

「枚方市歯科口腔保健計画」は平成 28 年度から施行し、終期を「第２次枚方市健康増進計画」と合わせて令和５年度までとする８年間の計画で、最終年度である令和５年度に最終評価を実施しました。

これを踏まえ最終評価では、歯科口腔保健計画で策定した目標の達成状況を明らかにすることにより、新たな課題や今後の取組方向を確認することを目的としています。枚方市歯科口腔保健計画の最終評価結果を、今後策定する第２次枚方市歯科口腔保健計画や歯科口腔に関わる各種取組へ反映します。

２．最終評価の方法

（１）　最終評価の流れ

〔令和４年度〕

11 月　　第１回 枚方市健康推進本部 健康増進部会の開催
　　第１回 枚方市健康増進計画審議会の開催

12 月～２月　　各アンケートの実施

- 生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート調査
- 小学生の生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート
- 中学生の生活習慣や歯と口の健康に関するアンケート
- 高校生の「歯と口の健康」・「食」に関するアンケート
- 学校歯科保健アンケート
- 障害者（児）施設における歯と口腔の健康に関するアンケート
- 介護老人福祉施設及び介護老人保健施設における歯と口腔の健康に関するアンケート

３月　　第２回 枚方市健康推進本部 健康増進部会の開催
　　第２回 枚方市健康増進計画審議会の開催

〔令和５年度〕

●月　　第１回 枚方市健康推進本部 健康増進部会の開催
　　第１回 枚方市健康増進計画審議会の開催

【調査及び結果の分析】

【アンケートの実施】

- 市内公立小学校（小学６年生：572 人）
- 市内公立中学校（中学２年生：288 人）
- 市内高等学校（890 人）
- 本市在住の 16 歳以上の方（1,169 人）
- 小学校・中学校・高等学校（70 校）
- 障害者（児）施設（121 施設）
- 介護施設（20 施設）

→ アンケート結果等の分析・評価（集計結果の詳細は資料編参照）

【最終評価報告書作成のための審議】

市長 ⇄ 枚方市健康増進計画審議会（諮問 → ／ ← 答申）

枚方市健康推進本部

市長、副市長、教育長、上下水道事業管理者、病院事業管理者、理事、危機管理監、健康福祉監、子育ち支援監、副教育長、部長、福祉事務所長、保健所長、会計管理者、上下水道局部長、市立病院事務局長、市議会事務局長、教育委員会部長、監査委員事務局長

↑

枚方市健康推進本部　健康増進部会

健康福祉部、市民活動課、企画課、商工振興課、文化生涯学習課、スポーツ振興課、健康福祉政策課、健康づくり・介護予防課、母子保健課、健康福祉総合相談課、障害企画課、保健医療課、子ども青少年政策課、公立保育幼稚園課、土木政策課、道路公園管理課、学校支援課、教育指導課

（２）　最終評価の方法

目標項目の達成状況について、現状値はアンケート調査及び庁内関係各課の実績データ等を利用し、計画策定時値と現状値及び目標値の比較により、以下の判定基準を用いて目標達成度を判定しました。

図表 ４　目標達成度と判定基準

目標達成度		判定基準
A	「達成・概ね達成」	達成率 90%以上
B+	「改善」	達成率 50%以上 90%未満
B-	「やや改善」	達成率 10%以上 50%未満
C	「変化なし」	達成率－10%以上 10%未満
D	「悪化」	達成率－10%未満
「分類なし」		目標値が数値でないもの

〔達成率の考え方〕

増加目標：（現状値－計画策定時値）/（目標値－計画策定時値）

削減目標：（計画策定時値－現状値）/（計画策定時値－目標値）

３．最終評価のまとめ

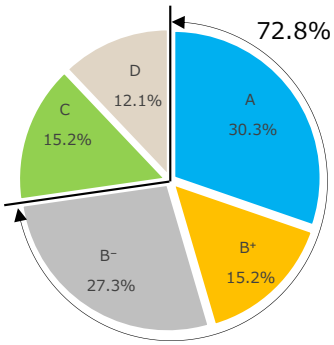
（１）　目標達成状況別まとめ

個別目標の達成状況は、33 項目中 24 項目が達成～やや改善（A：30.3%、B+：15.2%、B-：27.3%）で、全体の 72.8%を占める結果となりました。

一方、C（変化なし）は５項目で 15.2%、D（悪化）は４項目で 12.1%という結果でした。

図表 ５　最終評価における目標達成度の概要

目標達成度			項目数
A	達成・概ね達成	達成率 90%以上	10(30.3%)
B+	改善	達成率 50%以上 90%未満	5(15.2%)
B-	やや改善	達成率 10%以上 50%未満	9(27.3%)
C	変化なし	達成率－10%以上 10%未満	5(15.2%)
D	悪化	達成率－10%未満	4(12.1%)
合計			33(100%)



図表 ６　最終評価における評価区分別の目標達成状況結果

■ 達成状況の分類あり

達成状況		項目番号	目標項目
A	達成・概ね達成	5-2	【一般】過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の増加
		6-2	【一般】かかりつけ歯科医を有する者の増加
		7	3 歳児でのう蝕のない者の増加
		10	中学生・高校生における歯肉に所見を有する者の減少
		12-3	【高校生】学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少
		16	40 歳で喪失歯のない者の増加（35～44 歳）
		18	50 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の増加（45～54 歳）
		22	80 歳で 20 歯以上の自分の歯を有する者の増加（75～84 歳）
		24	60 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の割合の増加（55～64 歳）
		27	介護老人福祉施設・介護老人保健施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加
B+	改善	5-1	【小中高】過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の増加
		17	喫煙と歯周病の関係について知っている者の増加
		19	60 歳で未処置歯を有する者の減少
		25	妊産婦歯科健康診査受診率の増加
		28	糖尿病と歯周病の関係について知っている者の割合の増加

達成状況		項目番号	目標項目
B-	やや改善	1-1	【小中高】「8020 運動」という言葉を知っている者の増加
		1-2	【一般】「8020 運動」という言葉を知っている者の増加
		3-1	【小中高】フッ素入りの歯磨き剤を使用している者の増加
		3-2	【一般】フッ素入りの歯磨き剤を使用している者の増加
		4-1	【小中高】過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者の増加
		4-2	【一般】過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者の増加
		6-1	【高校生】かかりつけ歯科医を有する者の増加
		13	20 歳代における歯肉に炎症所見を有する者の減少
		15	40 歳の未処置歯を有する者の減少
C	変化なし	2-1	【小中高】「噛ミング 30」という言葉を知っている者の増加
		2-2	【一般】「噛ミング 30」という言葉を知っている者の増加
		12-2	【中学生】学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少
		20	60 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少
		26	障害者（児）入所施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加
D	悪化	8	3 歳児での不正咬合等が認められる者の減少
		9	12 歳児でう蝕のない者の増加
		12-1	【小学生】学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少
		14	40 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少

■ 達成状況の分類なし（目標値が数値ではなく、達成状況を達成率で分類できないもの）

項目番号	目標項目	目標値	策定時からの変化
11	CO・GO と診断された者に対して個別指導を実施している小学校・中学校・高等学校の増加	全校で実施	小：増加 中：横ばい 高：横ばい
21	60 歳で 24 歯以上の自分の歯を有する者の増加（55～64 歳）	さらなる増加	増加
23	60 歳代における咀嚼良好者の増加	さらなる増加	横ばい

（2）　ライフステージ別に見た達成状況

ライフステージ別では、高齢期は、各目標について、概ね改善傾向であり、かかりつけ歯科医を有する者の割合や歯間部清掃用器具を使用する者の割合が目標値を上回っているなど、日ごろから必要なケアが行われていることが伺われ、80 歳で 20 歯以上自分の歯を有する者（8020 を達成している者）も半数を超える結果となりました。

成人期に関しては、20 歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合に改善が見られないなど、一部課題は残るものの概ね良好な結果となっています。

一方、乳幼児期においては、3歳児での不正咬合等が認められる者の目標達成状況が低い結果となりました。また、学齢期においては、12 歳児でう蝕のある者が増加している、学校歯科健康診断の結果について認知している者の割合が目標値に照らして低いなど課題が残る結果となりました。

妊産婦、要介護者、有病者といった歯科医院の受診や日頃の歯と口のケアに配慮を要する者に関しての各目標項目は概ね改善傾向にありました。

図表 7　最終評価におけるライフステージ別の目標達成状況結果

ライフステージ	達成状況	項目番号	目標項目
全ライフステージ	B-	1-1	【小中高】「8020 運動」という言葉を知っている者の増加
	B-	1-2	【一般】「8020 運動」という言葉を知っている者の増加
	C	2-1	【小中高】「噛ミング 30」という言葉を知っている者の増加
	C	2-2	【一般】「噛ミング 30」という言葉を知っている者の増加
	B-	3-1	【小中高】フッ素入りの歯磨き剤を使用している者の増加
	B-	3-2	【一般】フッ素入りの歯磨き剤を使用している者の増加
	B-	4-1	【小中高】過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者の増加
	B-	4-2	【一般】過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者の増加
	B+	5-1	【小中高】過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の増加
	A	5-2	【一般】過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の増加
	B-	6-1	【高校生】かかりつけ歯科医を有する者の増加
	A	6-2	【一般】かかりつけ歯科医を有する者の増加
乳幼児期	A	7	3 歳児でのう蝕のない者の増加
	D	8	3 歳児での不正咬合等が認められる者の減少
学齢期	D	9	12 歳児でう蝕のない者の増加
	A	10	中学生・高校生における歯肉に所見を有する者の減少
	分類なし	11	CO・GO と診断された者に対して個別指導を実施している小学校・中学校・高等学校の増加
	D	12-1	【小学生】学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少
	C	12-2	【中学生】学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少
	A	12-3	【高校生】学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少

ライフステージ	達成状況	項目番号	目標項目
成人期	B-	13	20 歳代における歯肉に炎症所見を有する者の減少
	D	14	40 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少
	B-	15	40 歳の未処置歯を有する者の減少
	A	16	40 歳で喪失歯のない者の増加（35～44 歳）
	B+	17	喫煙と歯周病の関係について知っている者の増加
	A	18	50 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の増加（45～54 歳）
高齢期（65 歳～）	B+	19	60 歳で未処置歯を有する者の減少
	C	20	60 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少
	分類なし	21	60 歳で 24 歯以上の自分の歯を有する者の増加（55～64 歳）
	A	22	80 歳で 20 歯以上の自分の歯を有する者の増加（75～84 歳）
	分類なし	23	60 歳代における咀嚼良好者の増加
	A	24	60 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の割合の増加（55～64 歳）
妊産婦	B+	25	妊産婦歯科健康診査受診率の増加
障害児者	C	26	障害者（児）入所施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加
要介護者	A	27	介護老人福祉施設・介護老人保健施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加
有病者	B+	28	糖尿病と歯周病の関係について知っている者の割合の増加

４．目標達成状況の詳細

（１）　歯科口腔保健推進の方向性を踏まえた目標

項目番号	目標項目	策定時値 (H26 年度) 小学生 n=530 中学生 n=708 高校生 n=453 一般　n=867	中間評価値 (H30 年度) 小学生 n=585 中学生 n=700 高校生 n=468 一般 n=1,217	現状値 (R4 年度) 小学生 n=572 中学生 n=288 高校生 n=890 一般 n=1,169	目標値 (R5 年度)	達成状況
1-1	「8020 運動」という言葉を知っている者の増加	小・中・高 4.5% （17.9%※1）	小・中・高 14.3% （34.8%※1）	小・中・高 17.4% （37.8%※1）	80%	B-
1-2		一般 27.8% （55.8%※1）	一般 29.7% （56.6%※1）	一般 35.1% （66.6%※1）		B-
2-1	「噛ミング 30」という言葉を知っている者の増加	小・中・高 3.8% （18.4%※1）	小・中・高 5.9% （25.9%※1）	小・中・高 8.5% （28.7%※1）	80%	C
2-2		一般 8.4% （26.4%※1）	一般 9.4% （32.2%※1）	一般 8.2% （33.9%※1）		C
3-1	歯磨き剤を使用している者の増加	小・中・高 36.2% （92.0%※2）	小・中・高 36.7% （90.6%※2）	小・中・高 44.9% （91.8%※2）	90%	B-
3-2		一般 45.9% （72.3%※2）	一般 49.1% （79.3%※2）	一般 55.4% （80.5%※2）		B-
4-1	過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者の増加	小・中・高 25.0%	小・中・高 31.8%	小・中・高 34.3%	65%	B-
4-2		一般 51.4%※3 （n=544）	一般 55.9%※3 （n=803）	一般 57.9%※3 （n=894）		B-
5-1	過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の増加	小・中・高 28.9%	小・中・高 36.4%	小・中・高 48.2%	65%	B+
5-2		一般 59.1%	一般 63.8%	一般 67.8%		A
6-1	かかりつけ歯科医を有する者の増加	高校生 55.8%	高校生 41.9%	高校生 60.7%	70%	B-
6-2		一般 62.8%	一般 66.0%	一般 76.5%		A

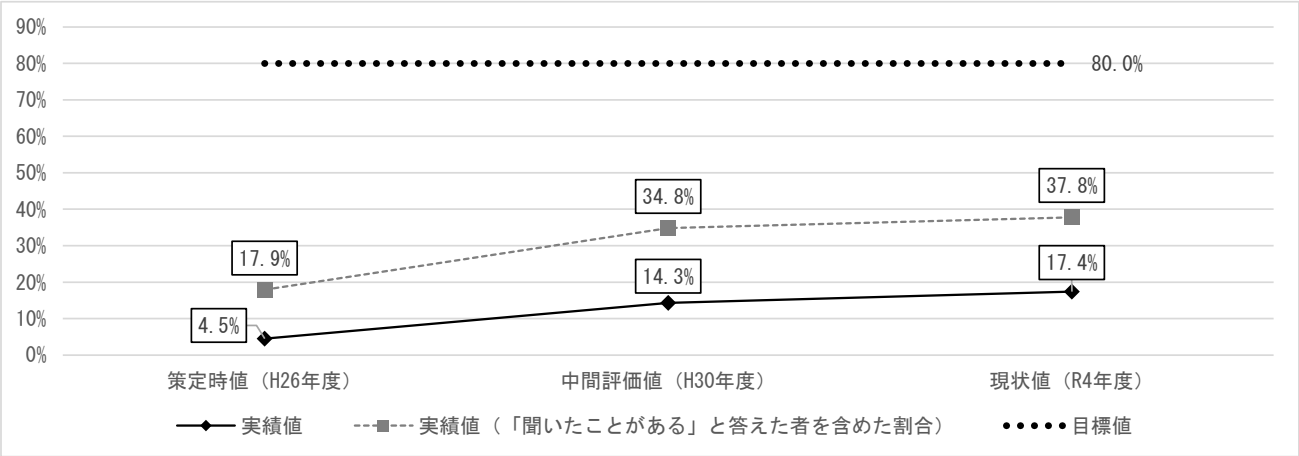
出所：市民アンケート、小学生アンケート、中学生アンケート、高校生アンケート

※１：「聞いたことがある」と答えた者を含めた割合

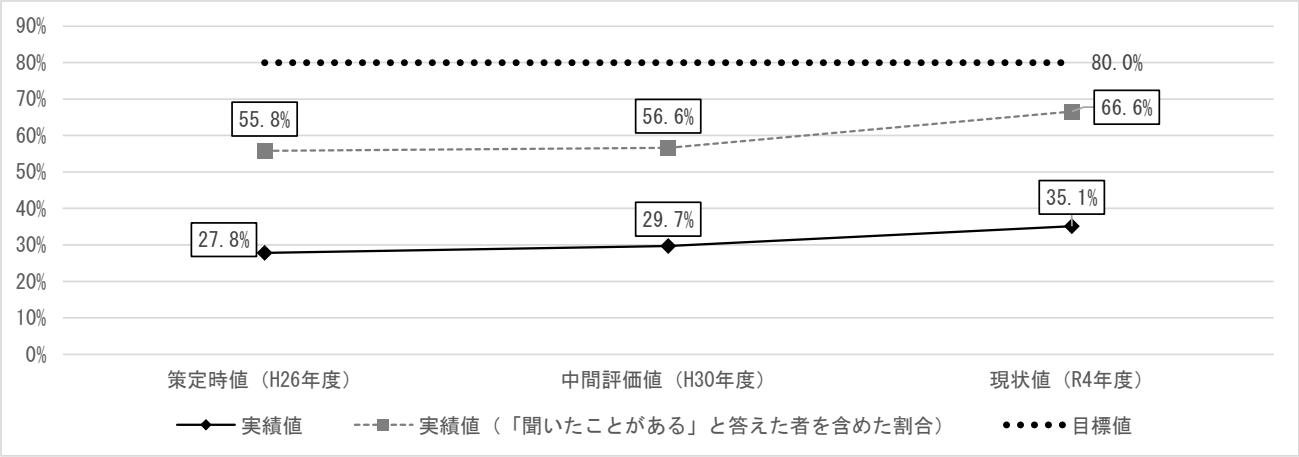
※２：市販の歯磨き剤の９割以上にフッ化物が配合されているため、「フッ素入りかわからない歯磨き剤を使用している」と答えた者を含めた割合

※３：「かかりつけ歯科医を有する者」のうち、「過去１年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者」の割合

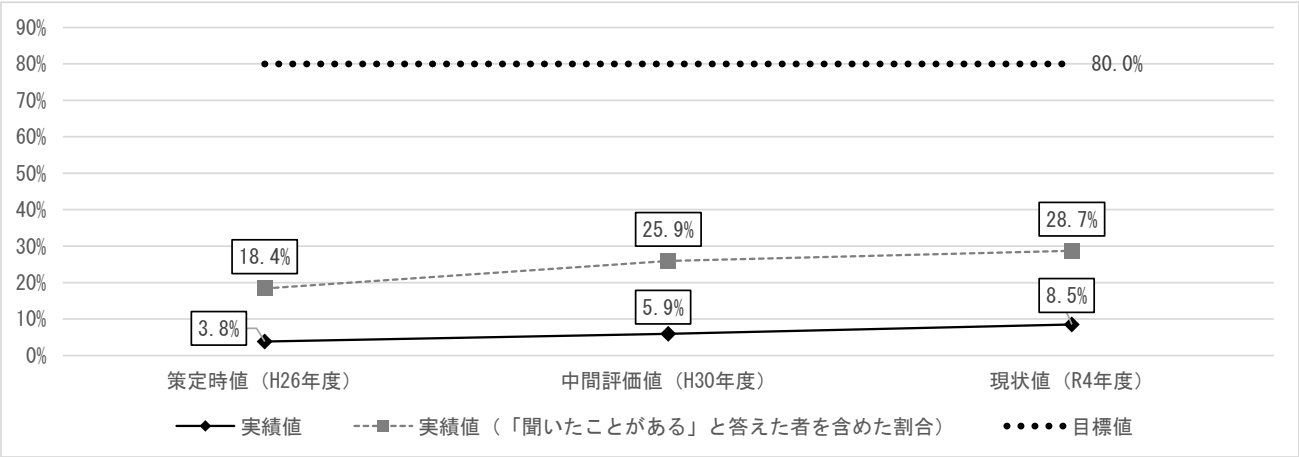
（項目番号 1-1）「8020 運動」という言葉を知っている者の割合（小学生・中学生・高校生）



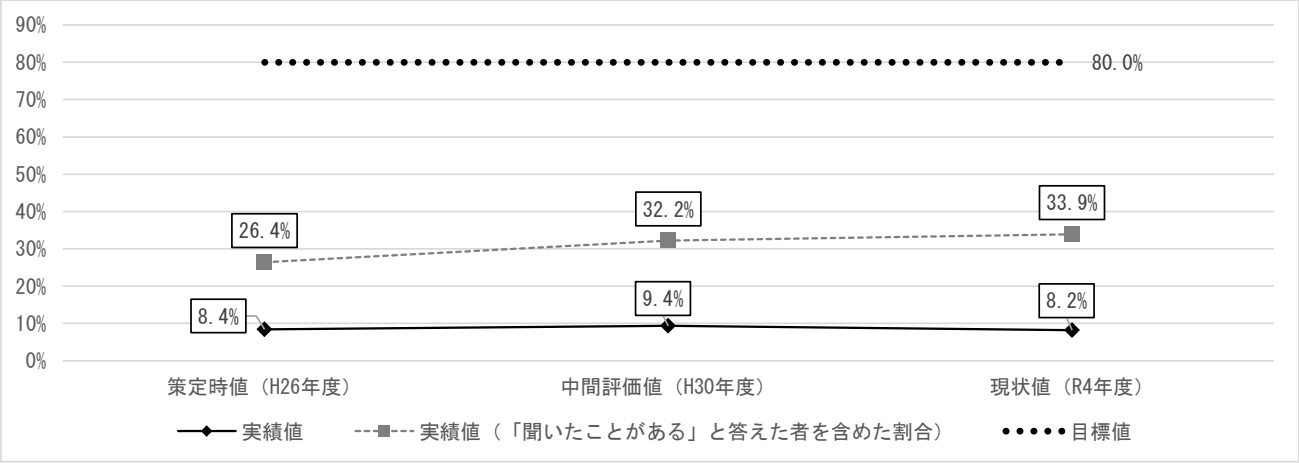
（項目番号 1-2）「8020 運動」という言葉を知っている者の割合（一般）



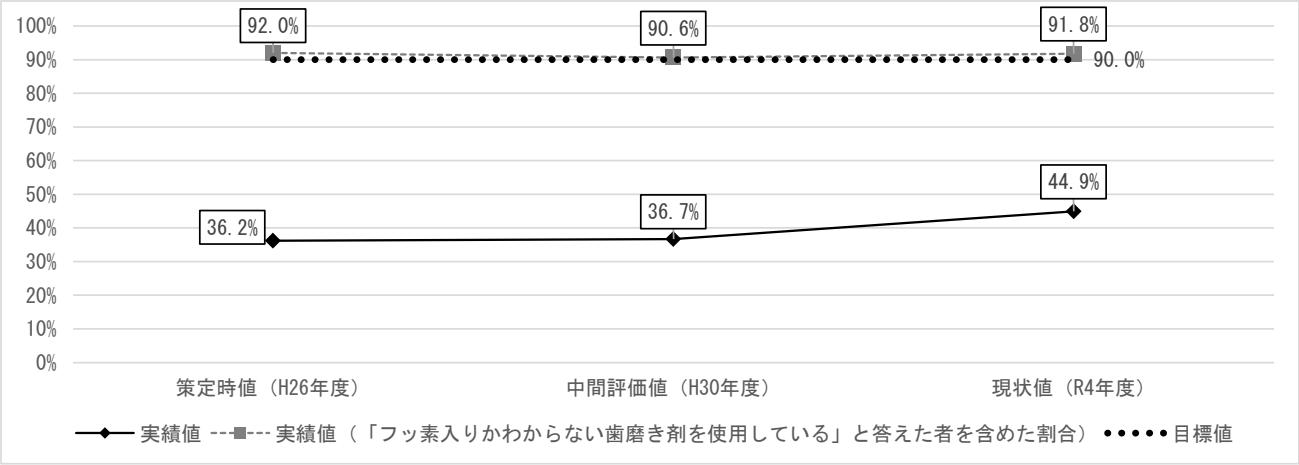
（項目番号 2-1）「噛ミング 30」という言葉を知っている者の割合（小学生・中学生・高校生）



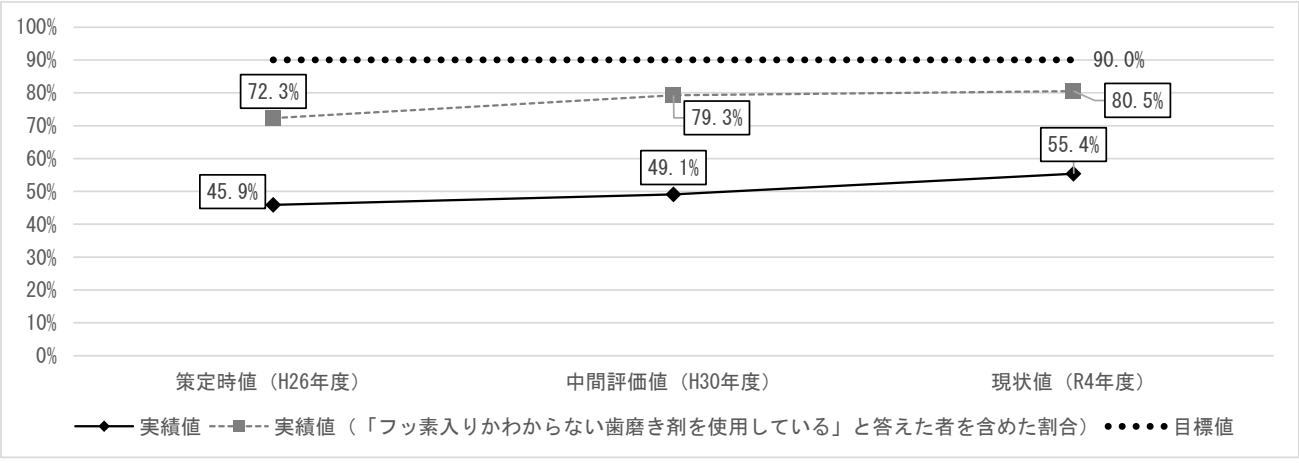
（項目番号 2-2）「噛ミング 30」という言葉を知っている者の割合（一般）



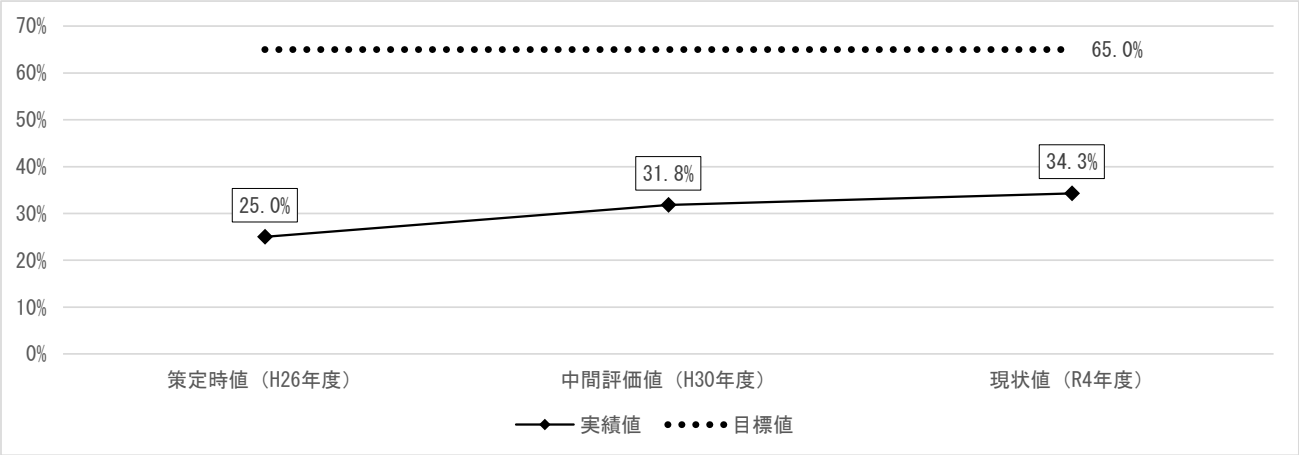
（項目番号 3-1）歯磨き剤を使用している者の割合（小学生・中学生・高校生）



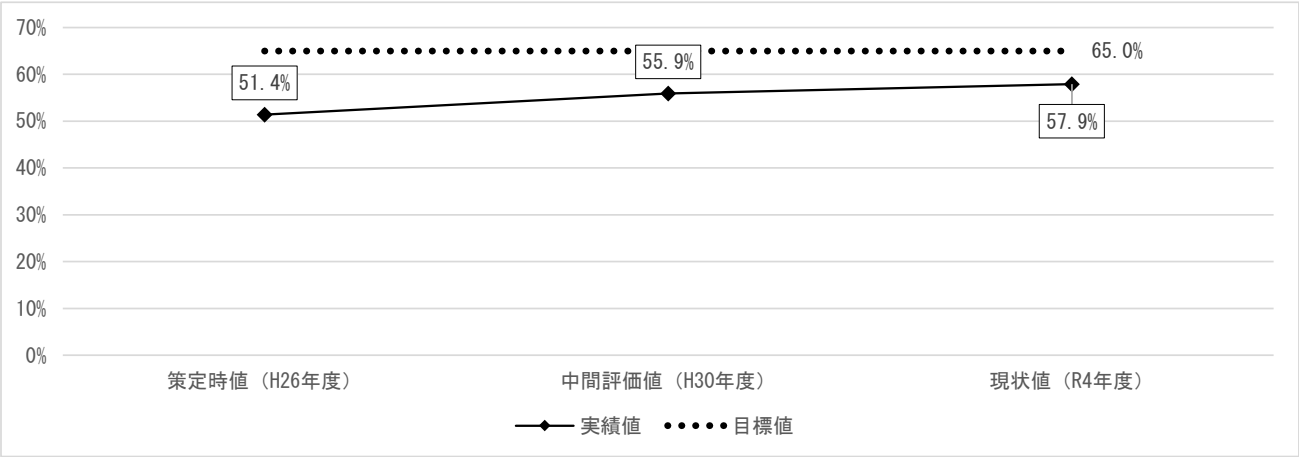
（項目番号 3-2）歯磨き剤を使用している者の割合（一般）



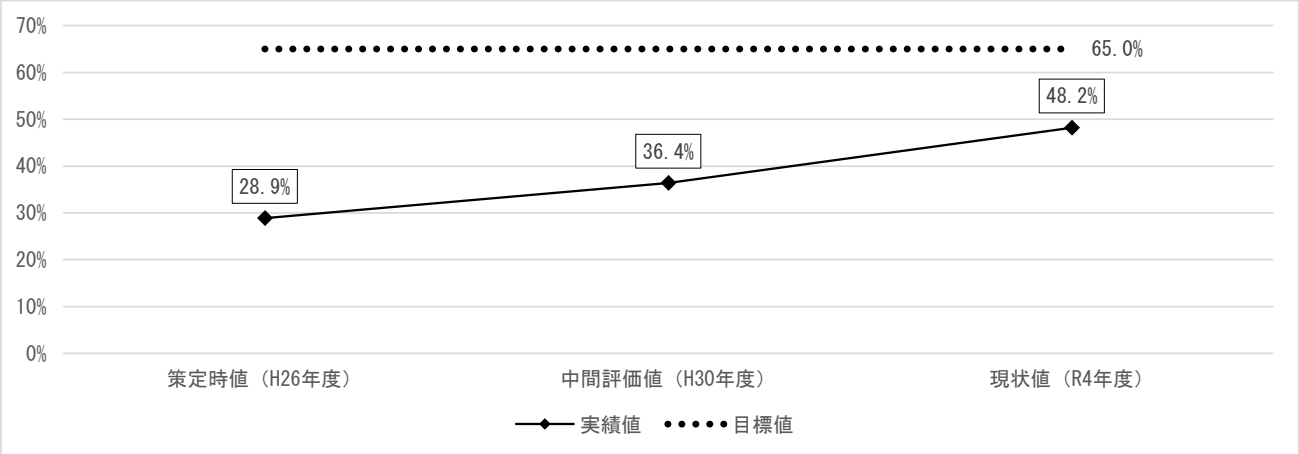
（項目番号 4-1）過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者の割合
（小学生・中学生・高校生）



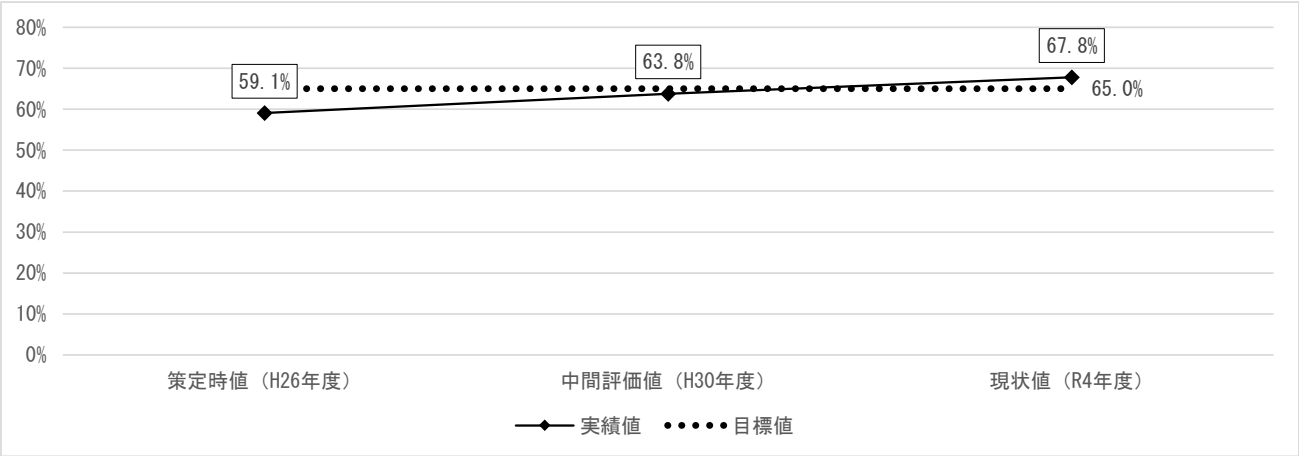
（項目番号 4-2）過去 1 年間に歯科医院で口腔清掃について個別に指導をうけた者の割合（一般）



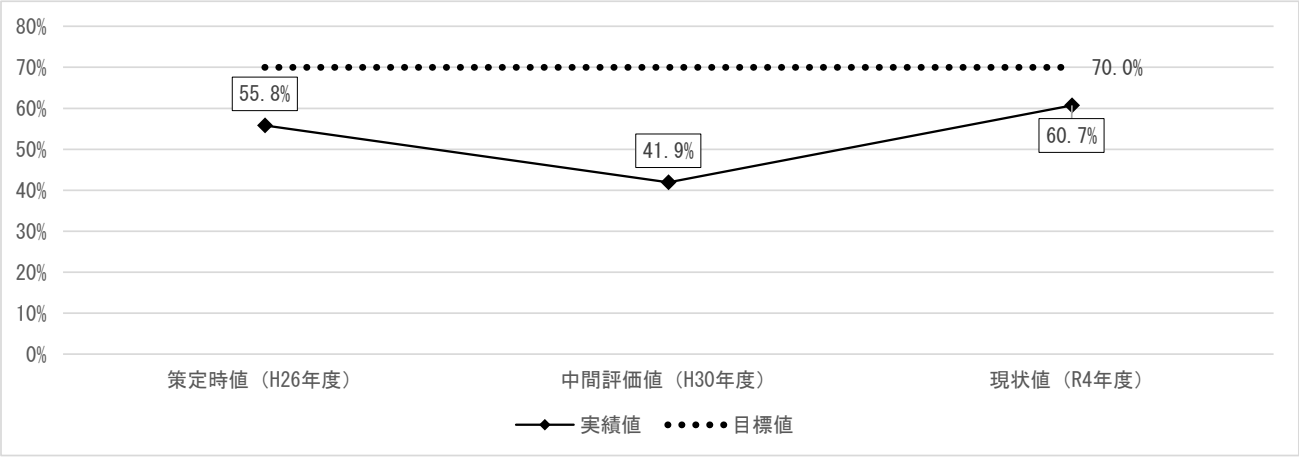
（項目番号 5-1）過去 1 年間に歯科健康診査を受診した者の割合（小学生・中学生・高校生）



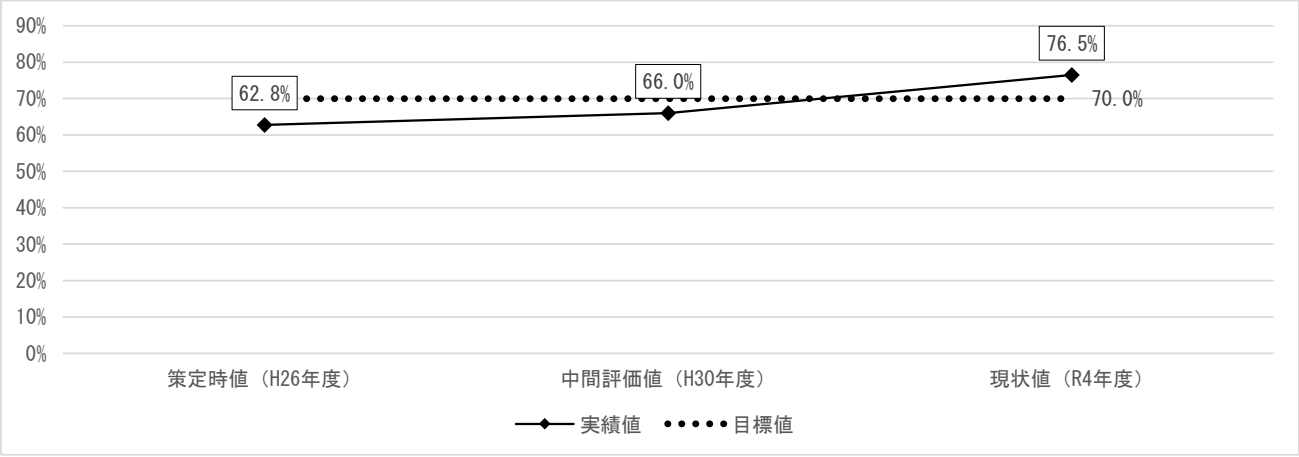
（項目番号５-2）過去１年間に歯科健康診査を受診した者の割合（一般）



（項目番号６-1）かかりつけ歯科医を有する者の割合（小学生・中学生・高校生）



（項目番号６-2）かかりつけ歯科医を有する者の割合（一般）



（２）　重点的歯科口腔保健対策

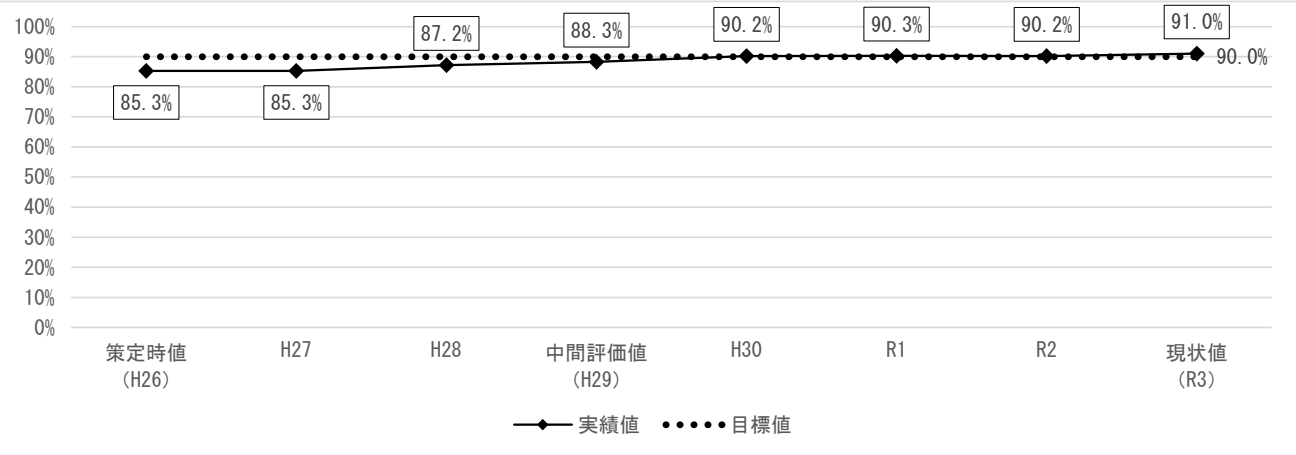
①　ライフステージの課題と取組

(ア) 乳幼児期（０～６歳）の歯科口腔保健

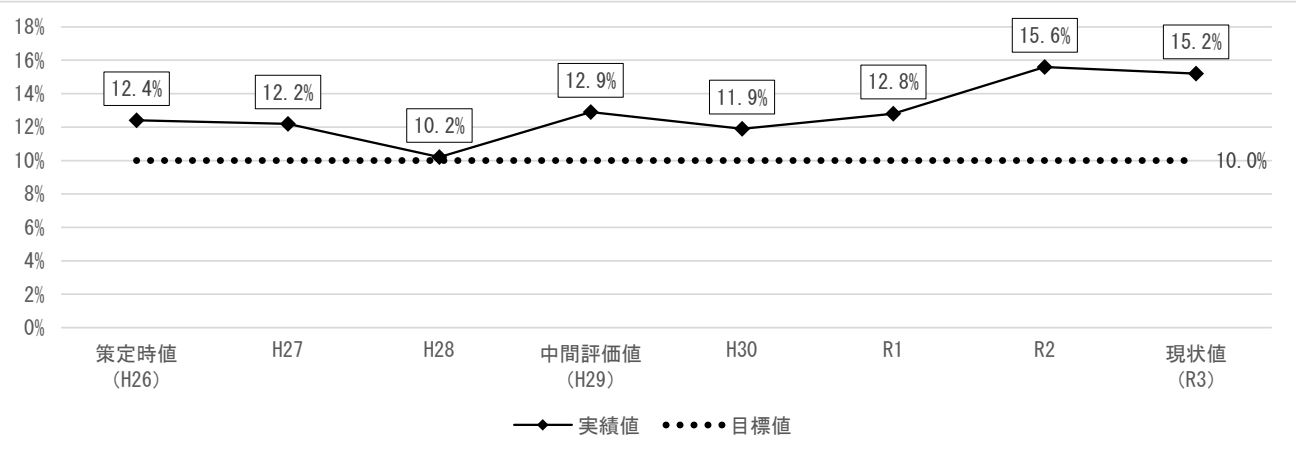
項目番号	目標項目	策定時値(H26 年度)	中間評価値(H29 年度)	現状値(R3 年度)	目標値(R5 年度)	達成状況
7	３ 歳児でのう蝕のない者の増加	85.3%（n=2,935）	88.3%（n=2,779）	91.0%（n=2,271）	90%	A（暫定）
8	３ 歳児での不正咬合等が認められる者の減少	12.4%（n=2,935）	12.9%（n=2,779）	15.2%（n=2,271）	10%	D（暫定）

出所：枚方市母子保健事業実績報告（３歳６か月児健康診査結果）

（項目番号７）３歳児でのう蝕のない者の割合



（項目番号８）３歳児での不正咬合等が認められる者の割合

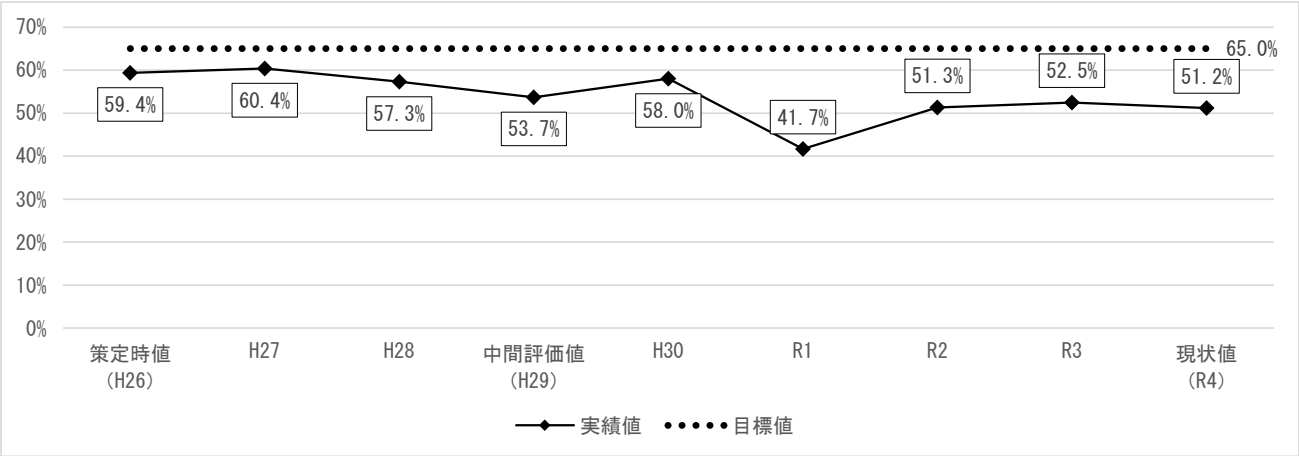


（イ）学齢期（7～18 歳）の歯科口腔保健

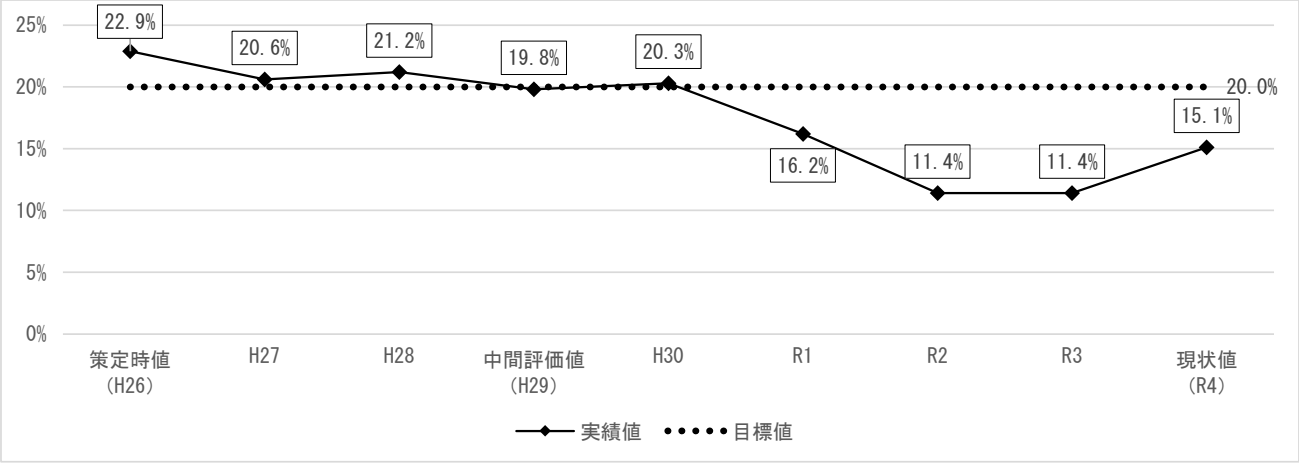
項目番号	目標項目	策定時値（H26 年度）	中間評価値（H29 年度）	現状値（R4 年度）	目標値（R5 年度）	達成状況 ※1
9	12 歳児でう蝕のない者の増加	59.4%	53.7%（n=3,350）	51.2%（n=3,175）	65%	D
10	中学生・高校生における歯肉に所見を有する者の減少	22.9%	19.8%（n=9,133）	15.1%（n=7,032）	20%	A
11	CO・GO と診断された者に対して個別指導を実施している小学校・中学校・高等学校の増加	小学校 4/45 校 中学校 0/19 校 高等学校 2/6 校	小学校 2/45 校 中学校 2/19 校 高等学校 3/6 校	小学校 8/43 校 中学校 0/18 校 高等学校 2/9 校	全校で実施	小学校 増加 中学校 横ばい 高校 横ばい
12-1	学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少（小学生）	小学生 24.9%（n=530）	小学生 26.7%（n=585）	小学生 37.2%（n=572）	小学生 13%	小学生 D
12-2	学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少（中学生）	中学生 30.4%（n=708）	中学生 35.3%（n=700）	中学生 29.5%（n=288）	中学生 15%	中学生 C
12-3	学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の減少（高校生）	高校生 25.6%（n=453）	高校生 29.9%（n=468）	高校生 2.0%（n=890）	高校生 13%	高校生 A

出所：枚方市学校健康歯科診断（項目番号9、10）、
小学生アンケート、中学生アンケート、高校生アンケート（項目番号 11、12）
※1：項目番号 11 は「策定時からの変化」

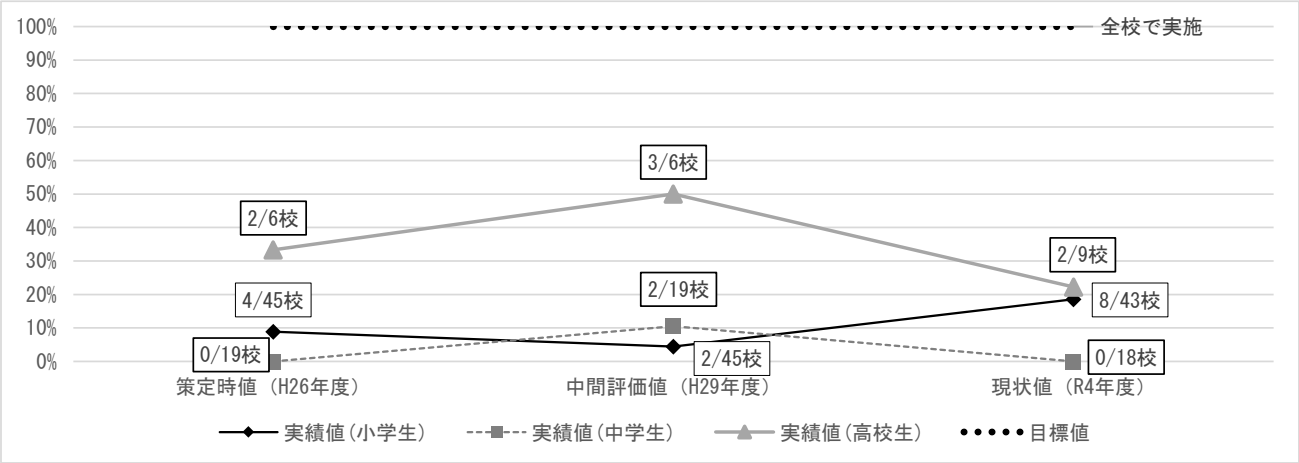
（項目番号 9）12 歳児でう蝕のない者の割合



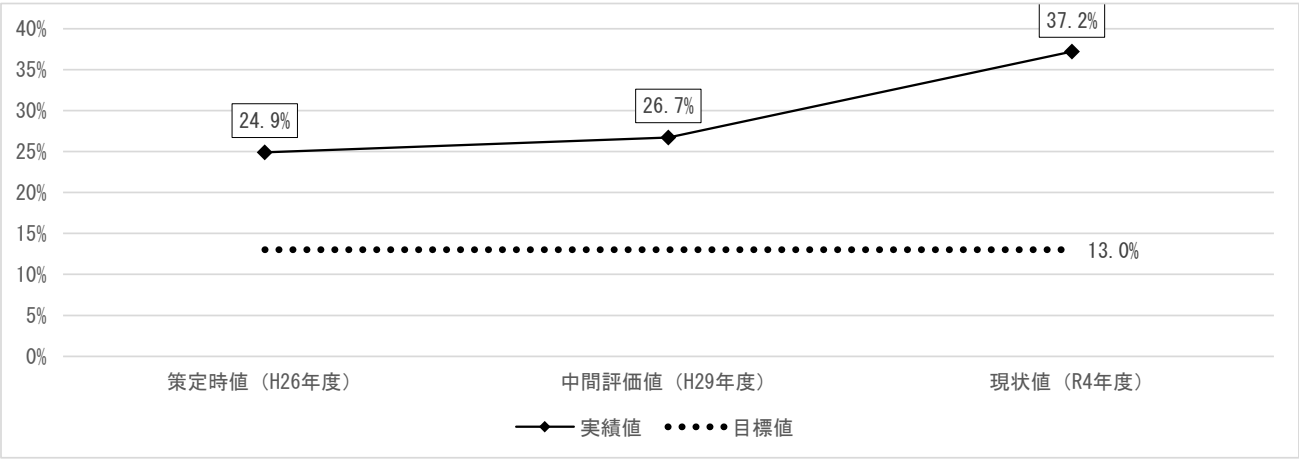
（項目番号 10）中学生・高校生における歯肉に所見を有する者の割合



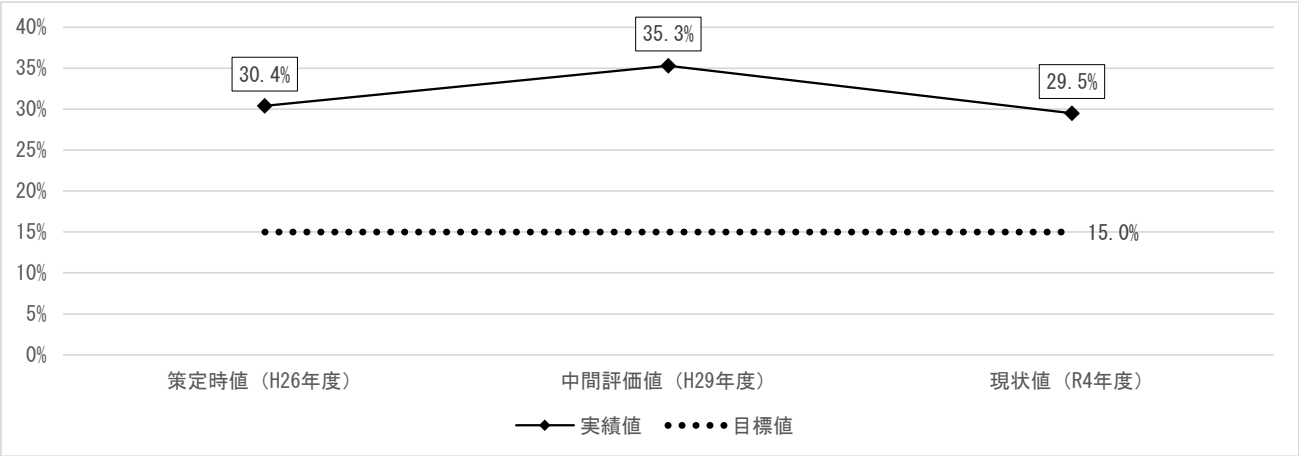
（項目番号 11）CO・GO と診断された者に対して個別指導を実施している小学校・中学校・高等学校数



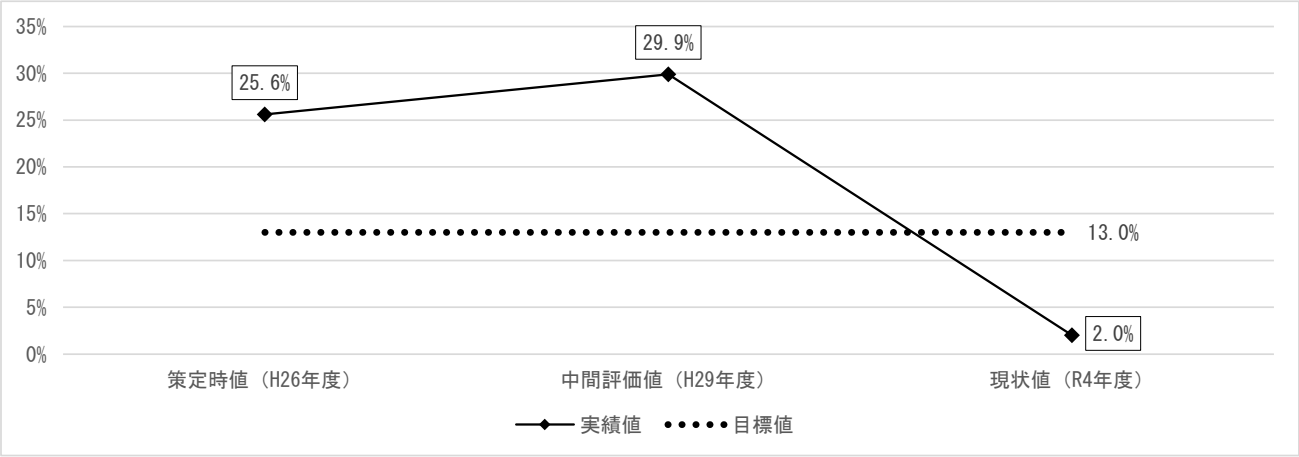
（項目番号 12）学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の割合（小学生）



（項目番号 12）学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の割合（中学生）



（項目番号 12）学校歯科健康診断の結果について「わからない・覚えていない」者の割合（高校生）

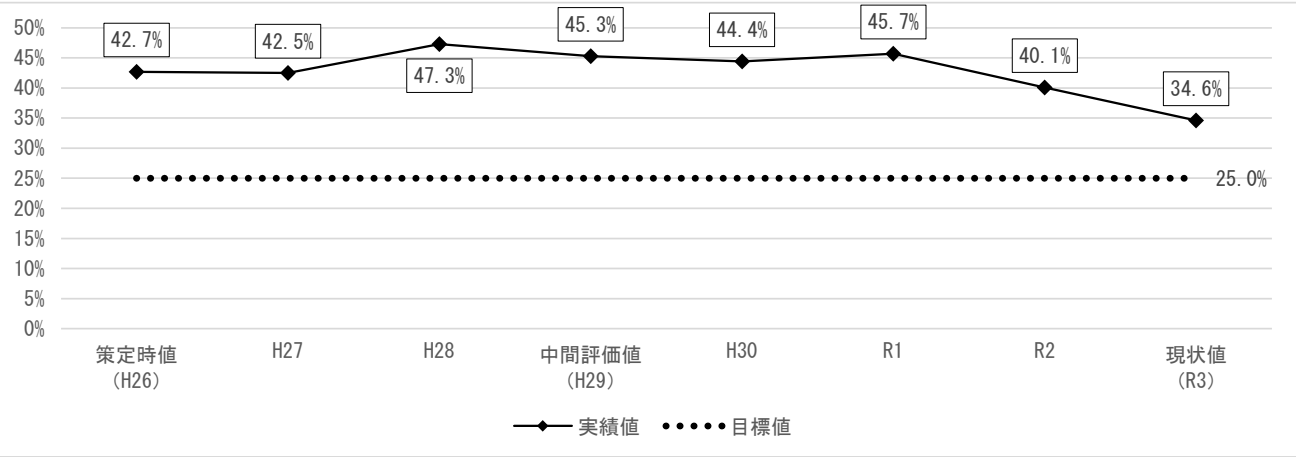


（ウ）成人期（19～59 歳）の歯科口腔保健

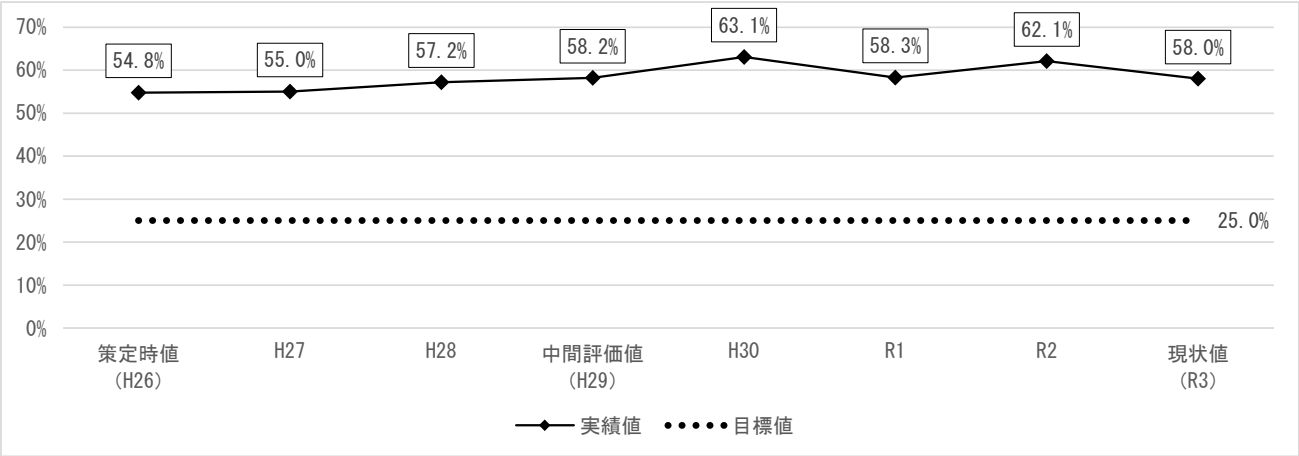
項目番号	目標項目	策定時値（H26 年度）	中間評価値（項目番号 13～15：H29 年度 項目番号 16～18：H30 年度）	現状値（項目番号 13～15：R3 年度 項目番号 16～18：R4 年度）	目標値（R5 年度）	達成状況
13	20 歳代における歯肉に炎症所見を有する者の減少	42.7%（n=482）	45.3%（n=386）	34.6%（n=318）	25%	B-（暫定）
14	40 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少	54.8%（n=42）	58.2%（n=390）	58.0%（n=474）	25%	D（暫定）
15	40 歳の未処置歯を有する者の割合	41.2%（n=17）	41.0%（n=188）	29.4%（n=214）	10%	B-（暫定）
16	40 歳で喪失歯のない者の増加（35～44 歳で算出）	60.0%（n=140） 62.5%※1（n=16）	67.7%（n=155）	76.2%（n=214）	75%	A
17	喫煙と歯周病の関係について知っている者の増加	30.6%（n=867）	41.1%（n=1,217）	45.8%（n=1,169）	50%	B+
18	50 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の増加（45～54 歳で算出）	30.8%（n=93）	53.2%（n=173）	65.4%（n=153）	55%	A

出所：成人歯科健康診査（項目番号 13）、歯周病検診（項目番号 14～16）、市民アンケート（項目番号 17,18）
※1：40 歳のみで算出した値

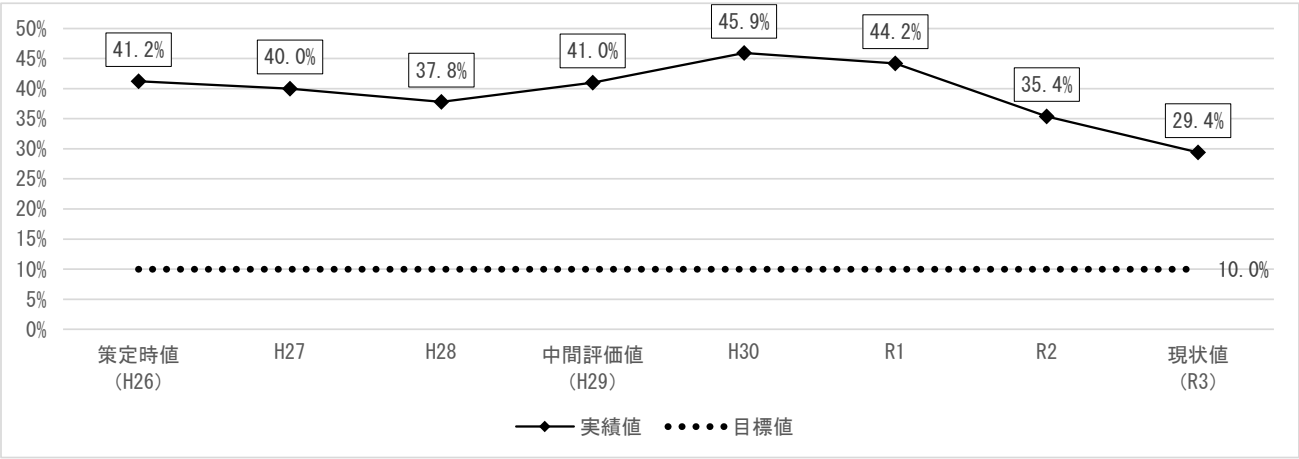
（項目番号 13）20 歳代における歯肉に炎症所見を有する者の割合



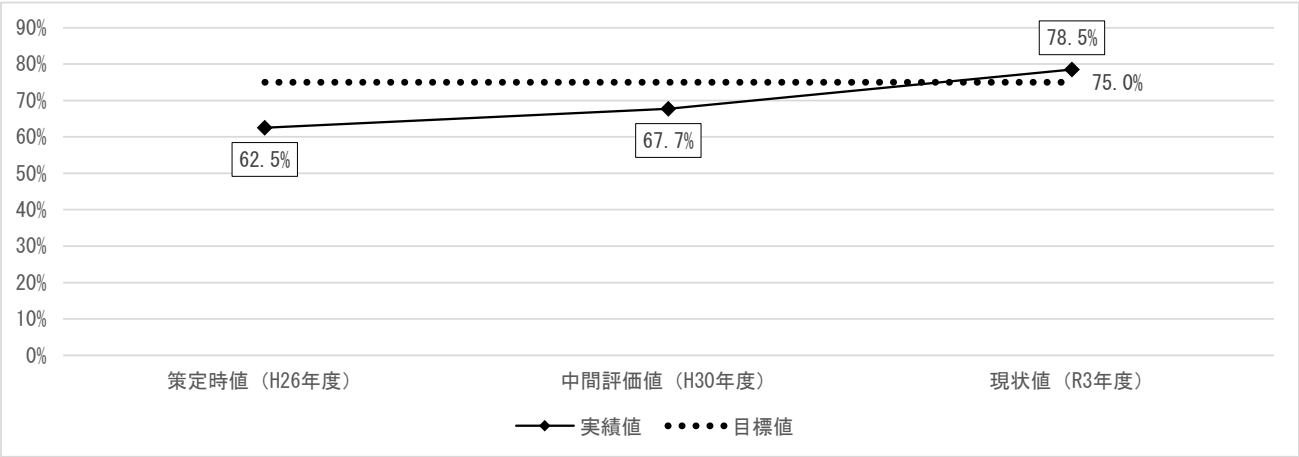
（項目番号 14）40 歳代における進行した歯周炎を有する者の割合



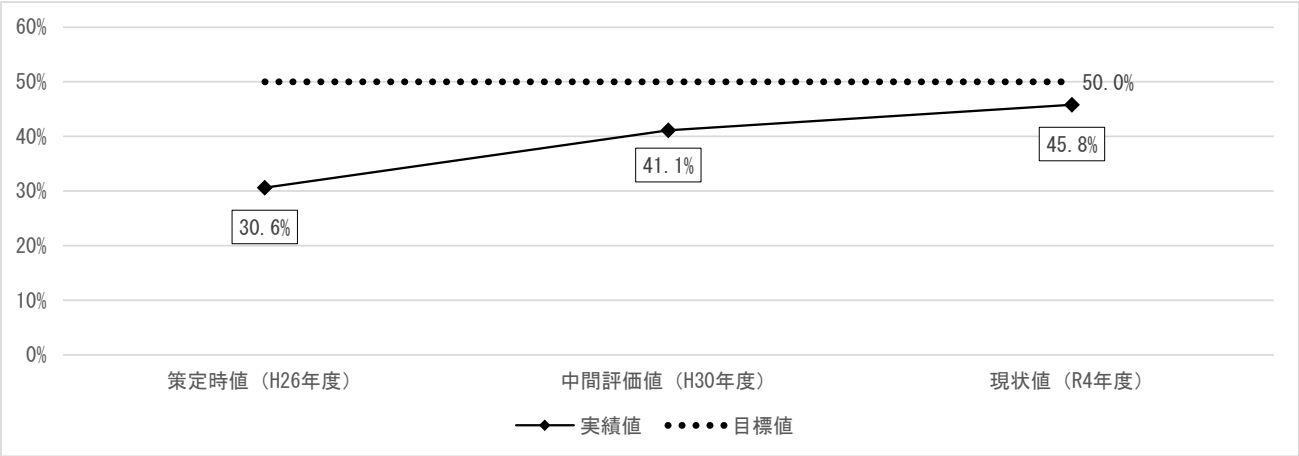
（項目番号 15）40 歳の未処置歯を有する者の割合



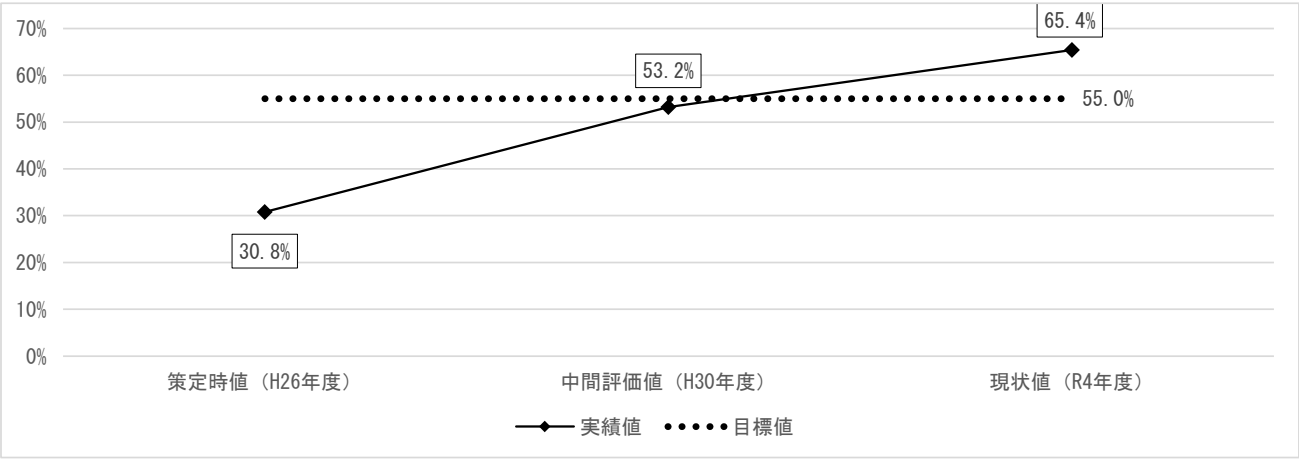
（項目番号 16）40 歳で喪失歯のない者の割合



（項目番号 17）喫煙と歯周病の関係について知っている者の割合



（項目番号 18）50 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の割合

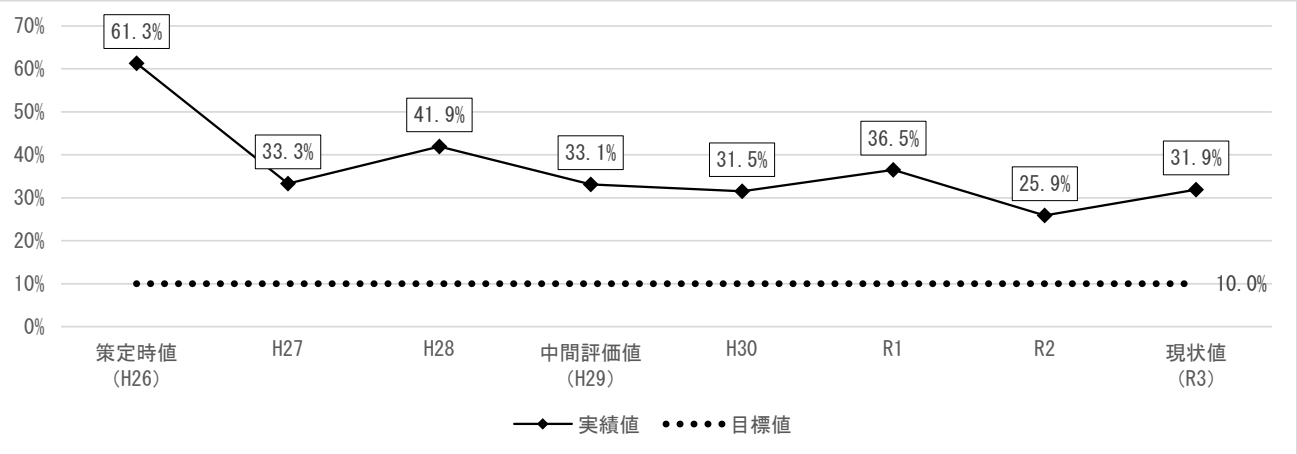


（エ）高齢期（60 歳～）の歯科口腔保健

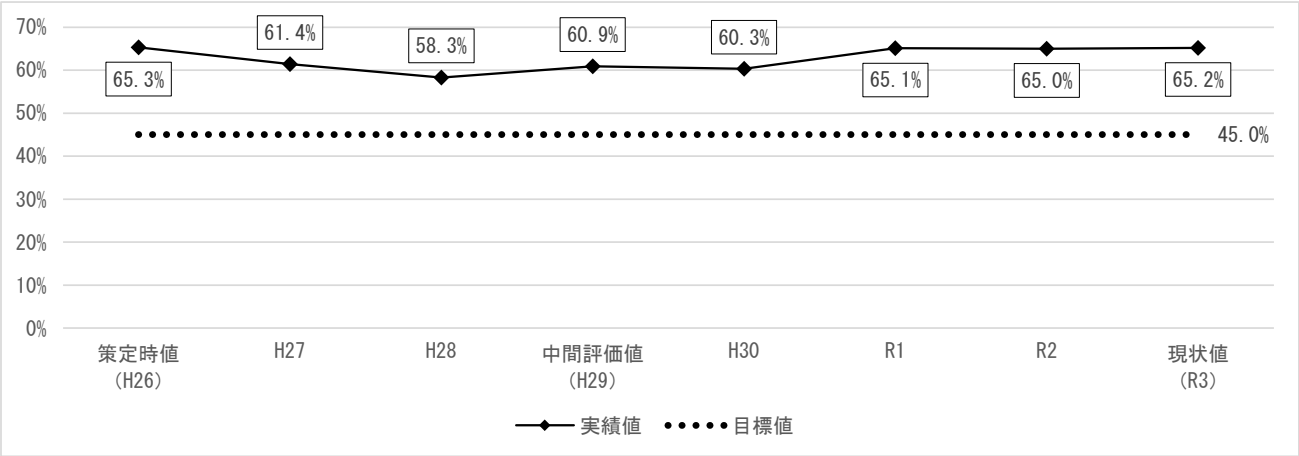
項目番号	目標項目	策定時値（H26 年度）	中間評価値（項目番号 19・20：29 年度 項目番号 21～24：30 年度）	現状値（項目番号 19・20：R3 年度 項目番号 21～24：R4 年度）	目標値（R5 年度）	達成状況 ※1
19	60 歳で未処置歯を有する者の減少	61.3%（n=31）	33.1%（n=139）	31.9%（n=260）	10%	B+（暫定）
20	60 歳代における進行した歯周炎を有する者の減少	65.3%（n=95）	60.9%（n=350）	65.2%（n=531）	45%	C（暫定）
21	60 歳で 24 歯以上の自分の歯を有する者の増加（55～64 歳で算出）	70.2%（n=159）	69.4%（n=193）	78.9%（n=152）	さらなる増加	増加
22	80 歳で 20 歯以上の自分の歯を有する者の増加（75～84 歳で算出）	45.4%（n=81）	47.6%（n=187）	58.3%（n=211）	50%	A
23	60 歳代における咀嚼良好者の増加	82.0%（n=205）	80.2%（n=227）	82.1%（n=173）	さらなる増加	横ばい
24	60 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の割合の増加（55～64 歳で算出）	50.0%（n=159）	47.7%（n=193）	62.7%（n=134）	60%	A

出所：歯周病健診（項目番号 19、20）、市民アンケート（項目番号 21～24）
※1：項目番号 21、23 は「策定時からの変化」

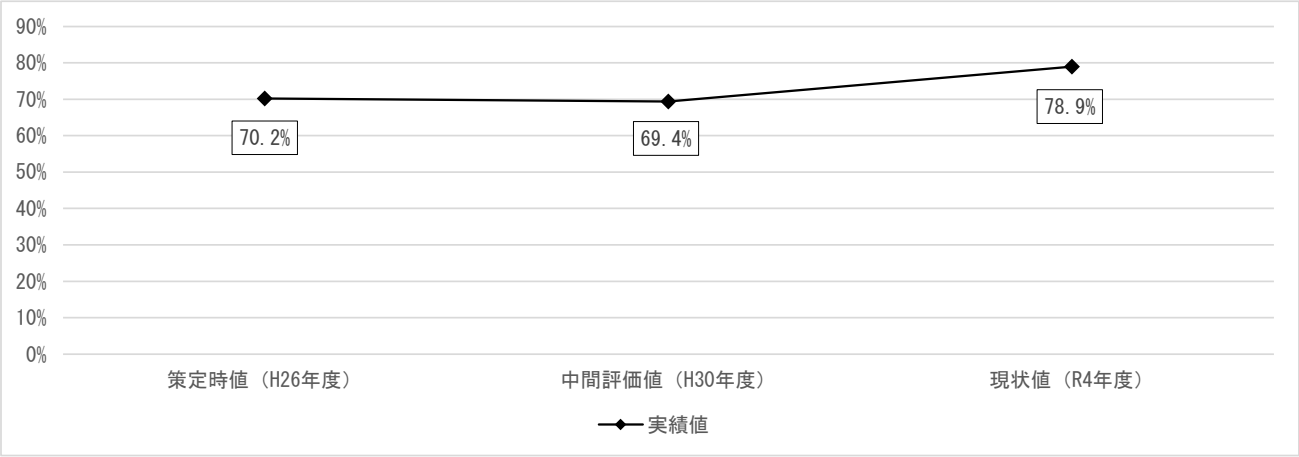
（項目番号 19）60 歳で未処置歯を有する者の割合



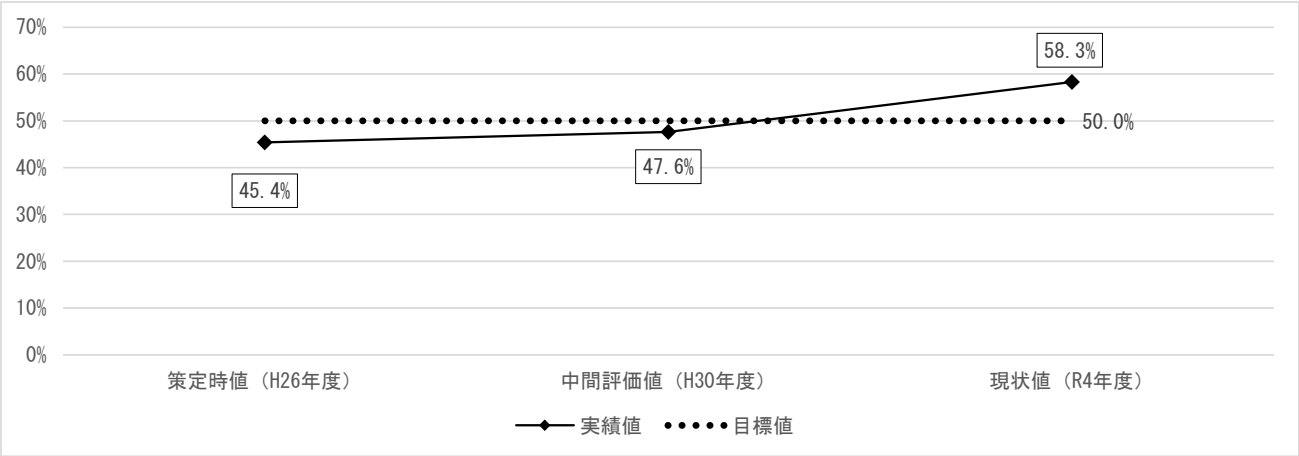
（項目番号 20）60 歳代における進行した歯周炎を有する者の割合



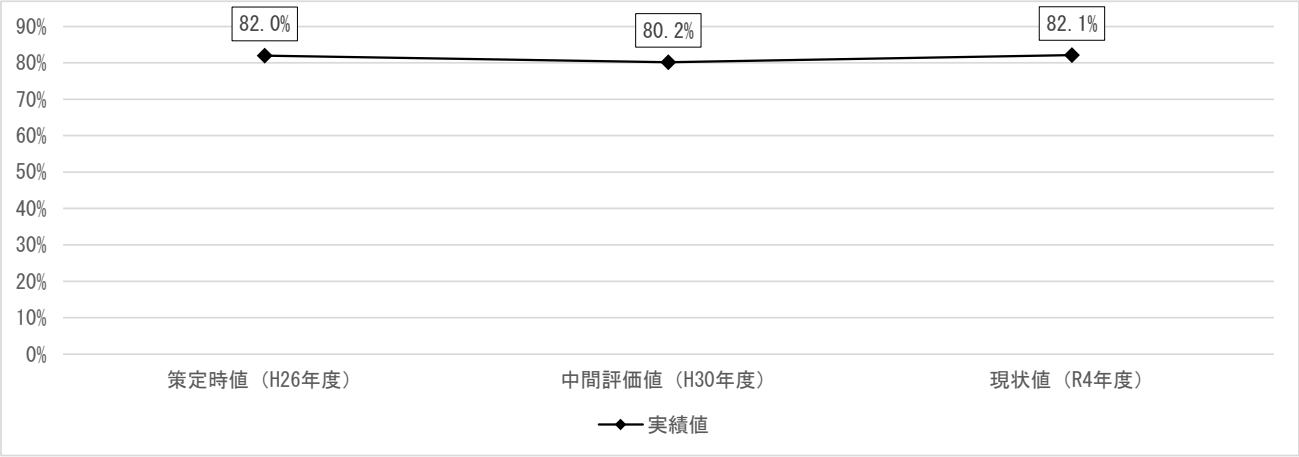
（項目番号 21）60 歳で 24 歯以上の自分の歯を有する者の割合



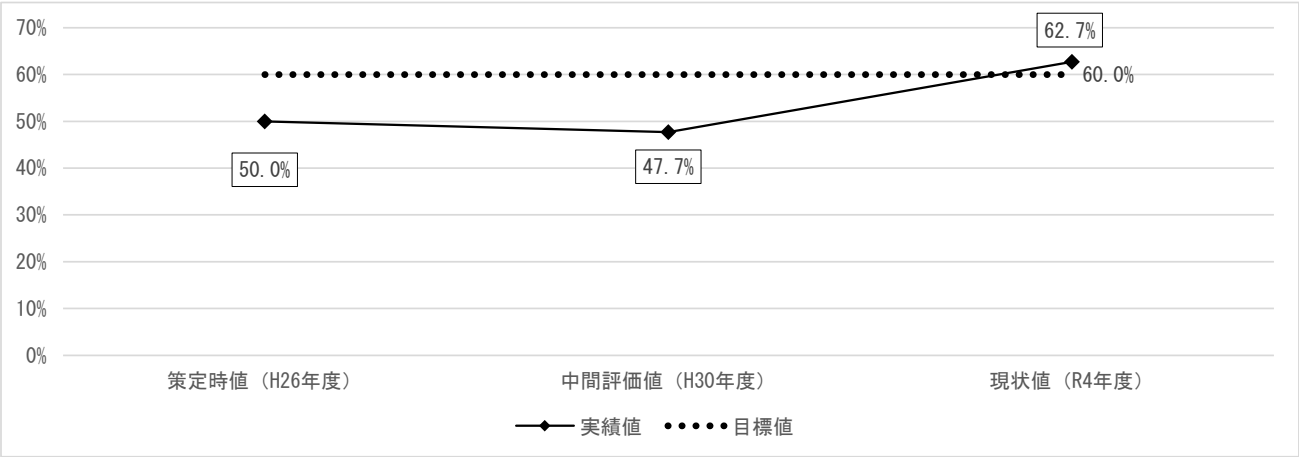
（項目番号 22）80 歳で 20 歯以上の自分の歯を有する者の割合



（項目番号 23）60 歳代における咀嚼良好者の割合



（項目番号 24）60 歳で歯間部清掃用器具を使用する者の割合



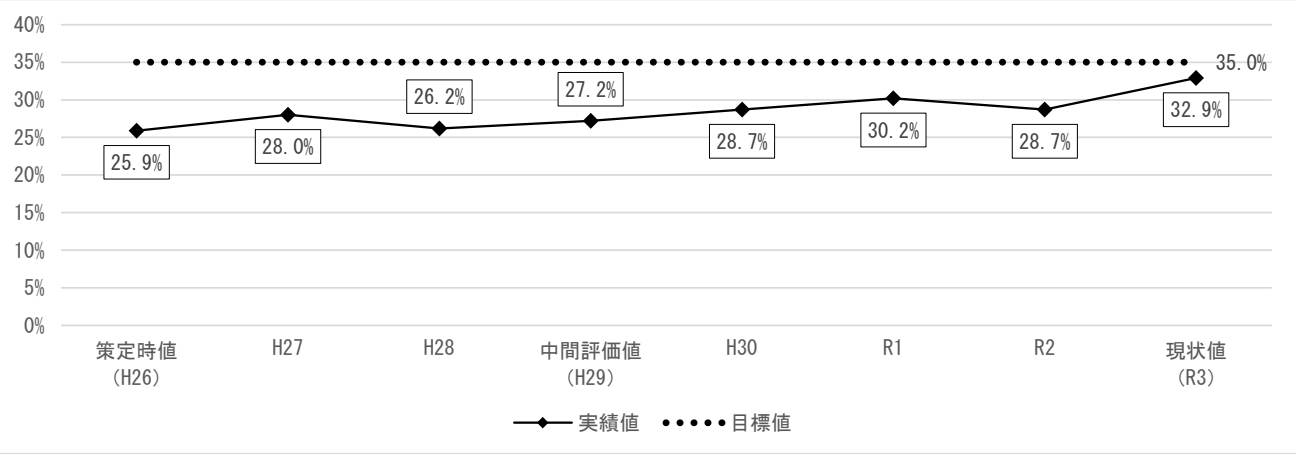
② 配慮を要する者の課題と取組

(ア) 妊産婦の歯科口腔保健

項目番号	目標項目	策定時値(H26 年度)	中間評価値(H29 年度)	現状値(R3 年度)	目標値(R5 年度)	達成状況
25	妊産婦歯科健康診査受診率の増加	25.9%（n=3,163）	27.2%（n=2,878）	32.9%	35%	B+（暫定）

出所：妊産婦歯科健康診査

（項目番号 25）妊産婦歯科健康診査受診率

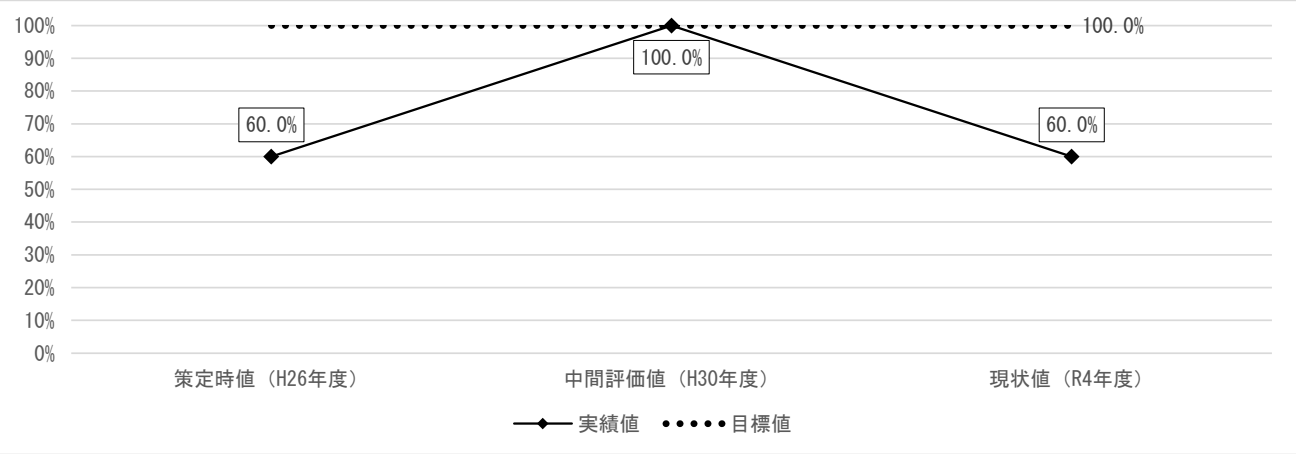


(イ) 障害者（児）の歯科口腔保健

項目番号	目標項目	策定時値(H26 年度)	中間評価値(H30 年度)	現状値(R4 年度)	目標値(R5 年度)	達成状況
26	障害者（児）入所施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加	60.0%（n=5）	100%（n=5）	60.0%（n=5）	100%	C

出所：障害者（児）施設アンケート

（項目番号 26）障害者（児）入所施設での定期的な歯科健康診査実施率

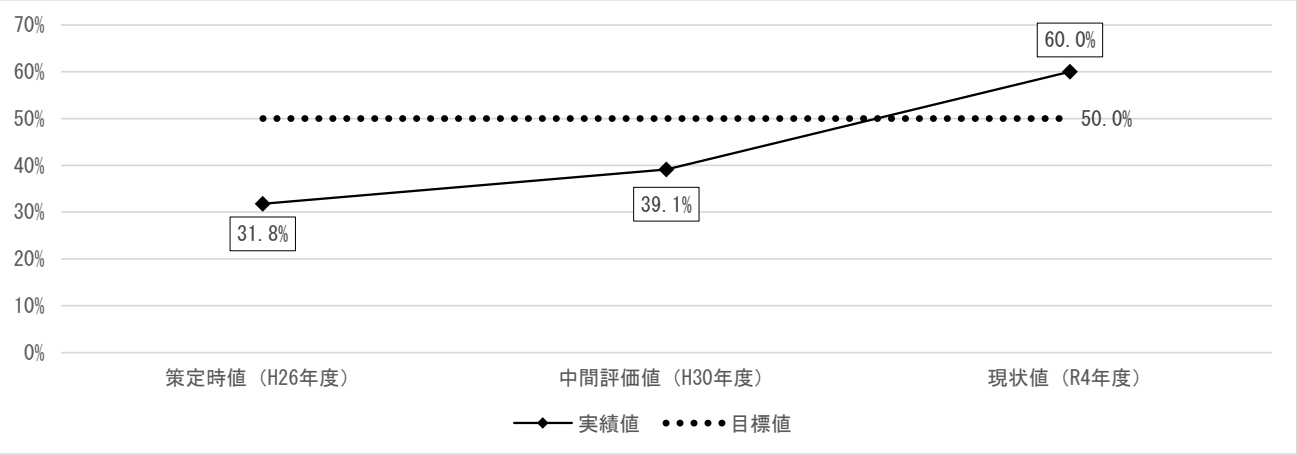


（ウ）要介護者の歯科口腔保健

項目番号	目標項目	策定時値（H26 年度）	中間評価値（H30 年度）	現状値（R4 年度）	目標値（R5 年度）	達成状況
27	介護老人福祉施設・介護老人保健施設での定期的な歯科健康診査実施率の増加	31.8%（n=22）	39.1%（n=23）	60.0%（n=20）	50%	A

出所：介護施設アンケート

（項目番号 27）介護老人福祉施設・介護老人保健施設での定期的な歯科健康診査実施率

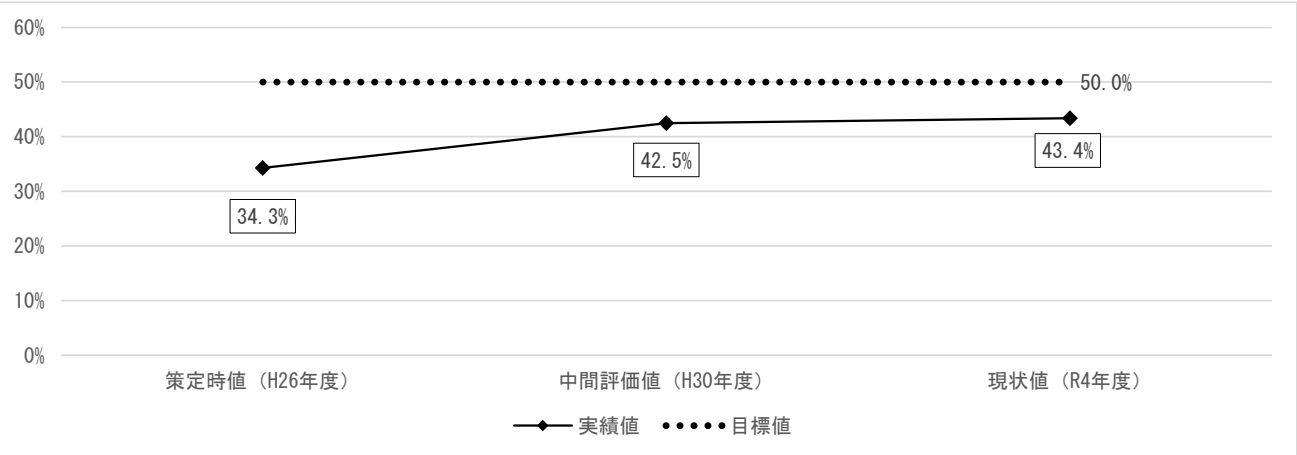


（エ）有病者の歯科口腔保健

項目番号	目標項目	策定時値（H26 年度）	中間評価値（H30 年度）	現状値（R4 年度）	目標値（R5 年度）	達成状況
28	糖尿病と歯周病の関係について知っている者の割合の増加	34.3%（n=867）	42.5%（n=1,217）	43.4%（n=1,169）	50%	B+

出所：市民アンケート

（項目番号 28）糖尿病と歯周病の関係について知っている者の割合



第３章　最終評価からみえてきた課題と今後の取組の方向性

（１）国の動向や新型コロナウイルス感染症の流行を含む社会環境の変化などについて記載する予定

（２）中間評価でまとめた「最終年度に向けて特に進める基本方針」や「優先的に取り組む課題」を中心に４つの基本方針ごとに最終評価の総括を記載する予定

（３）今後、取り組むべき方向性（次期計画に反映すべきこと等）を記載する予定